

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7501218号
(P7501218)

(45)発行日 令和6年6月18日(2024.6.18)

(24)登録日 令和6年6月10日(2024.6.10)

(51)国際特許分類	F I			
A 4 7 B 9/00 (2006.01)	A 4 7 B 9/00	Z		
A 4 7 B 13/00 (2006.01)	A 4 7 B 13/00	Z		
A 4 7 B 17/00 (2006.01)	A 4 7 B 17/00	A		

請求項の数 7 (全16頁)

(21)出願番号	特願2020-137507(P2020-137507)	(73)特許権者	000001351
(22)出願日	令和2年8月17日(2020.8.17)		コクヨ株式会社
(65)公開番号	特開2022-33547(P2022-33547A)		大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号
(43)公開日	令和4年3月2日(2022.3.2)	(74)代理人	100085338
審査請求日	令和5年7月21日(2023.7.21)		弁理士 赤澤 一博
		(72)発明者	千田 啓資
			大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号 コクヨ株式会社内
		(72)発明者	長谷川 徹
			大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号 コクヨ株式会社内
		(72)発明者	山西 学
			大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号 コクヨ株式会社内
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 デスク

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

相互に高さ位置の異なる第 1 の取付箇所と第 2 の取付箇所とを有する脚体と、前記第 1、第 2 の取付箇所のいずれかに選択的に取り付けられる天板と、前記天板が前記第 2 の取付箇所に取り付けられている状態で前記第 1 の取付箇所に取り付けられる棚板とを具備してなり、
前記天板又は棚板の上面が、隣接配置又は対面配置された同一構造をなす他のデスクの天板又は棚板の上面と面一に連続し得るように構成されているデスク。

【請求項 2】

前記第 1 の取付箇所に取付けられた前記天板は、使用者が起立姿勢で使用するのに適した

10

【請求項 3】

前記第 2 の取付箇所に取付けられた前記天板は、使用者が着座姿勢で使用するのに適したローレベル位置に保持されるものである請求項 1 記載のデスク。

【請求項 4】

前記天板の反使用端側に幕板を垂下させて設けたものであり、前記天板を前記幕板とともに移動させて前記第 1 の取付箇所及び前記第 2 の取付箇所のいずれかに取り付けることができるように構成されている請求項 1、2 又は 3 記載のデスク。

【請求項 5】

前記脚体は、後端面を略鉛直に起立させたものであり、

20

前記天板と前記幕板との関係が天板勝ちとなっている場合における前記天板の後端、又は前記天板と前記幕板との関係が幕板勝ちとなっている場合における前記幕板の後端が、前記脚体の後端面と略面一となるように構成されている請求項 4 記載のデスク。

【請求項 6】

前記幕板の下端部に前記棚板とは異なったサブ棚板が配されている請求項 4 又は 5 記載のデスク。

【請求項 7】

前記脚体は、前記天板が前記第 1 の取付箇所に取り付けられている状態で、前記棚板を前記サブ棚板よりも下方位置に取り付けるための第 3 の取付箇所を備えている請求項 6 記載のデスク。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、天板の高さ位置を変更可能なデスクに関する。

【背景技術】

【0002】

従来この種のデスクとして、一対の脚体間に連結部材を架設し、連結部材の前面に天板を固設した什器が知られている（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

この什器は、脚体に対する連結部材の取付位置を変更することによって、天板の高さ位置を変更することができるようになっている。しかしながら、かかる什器は複数台を隣接配置して使用するようなことは想定されていない。

20

【0004】

そのため、このような什器を天板高さを揃えて対面配置したとしても、一方の什器の天板と他方の什器の天板との間には連結部材が障害物として存在することになり、対面配置した場合のメリットの一つ、すなわち、対面配置した天板の上面同士を面一に連続させて使用することができるというメリットを享受することができない。

【0005】

また、かかる什器は、天板と他の什器の棚板との高さ関係についても一切配慮がなされておらず、複数台の什器を隣接配置した場合に雑然としたものとなる。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【文献】特開 2019 - 201740 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

本発明は、前述したような課題を同時に解消することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0008】

40

請求項 1 記載の発明に係るデスクは、相互に高さ位置の異なる第 1 の取付箇所と第 2 の取付箇所とを有する脚体と、前記第 1、第 2 の取付箇所のいずれかに選択的に取り付けられる天板と、前記天板が前記第 2 の取付箇所に取り付けられている状態で前記第 1 の取付箇所に取り付けられる棚板とを具備してなり、前記天板又は棚板の上面が、隣接配置又は対面配置された同一構造をなす他のデスクの天板又は棚板の上面と面一に連続し得るように構成されているものである。

【0009】

ここで、「天板又は棚板の上面が、隣接配置又は対面配置された同一構造をなす他のデスクの天板又は棚板の上面と面一に連続し得る」とは、当該天板又は棚板の上面と他のデスクの天板又は棚板の上面との間に障害物がなくこれらにまたがって物品を載置可能であ

50

ることを示す概念である。

【 0 0 1 0 】

請求項 2 記載の発明に係るデスクは、請求項 1 記載のものであって、前記第 1 の取付箇所に取り付けられた前記天板が、使用者が起立姿勢で使用するのに適したハイレベル位置に保持されるものである。

【 0 0 1 1 】

請求項 3 記載の発明に係るデスクは、請求項 1 記載のものであって、前記第 2 の取付箇所に取り付けられた前記天板は、使用者が着座姿勢で使用するのに適したローレベル位置に保持されるものである。

【 0 0 1 2 】

請求項 4 記載の発明に係るデスクは、請求項 1、2 又は 3 記載のものであって、前記天板の反使用端側に幕板を垂下させて設けたものであり、前記天板を前記幕板とともに移動させて前記第 1 の取付箇所及び前記第 2 の取付箇所のいずれかに取り付けることができるように構成されているものである。

【 0 0 1 3 】

請求項 5 記載の発明に係るデスクは、請求項 4 記載のものであって、前記脚体は、後端面を略鉛直に起立させたものであり、前記天板と前記幕板との関係が天板勝ちとなっている場合における前記天板の後端、又は前記天板と前記幕板との関係が幕板勝ちとなっている場合における前記幕板の後端が、前記脚体の後端面と略面一となるように構成されているものである。

【 0 0 1 4 】

請求項 6 記載の発明に係るデスクは、請求項 4 又は 5 記載のものであって、前記幕板の下端部に前記棚板とは異なったサブ棚板が配されているものである。

【 0 0 1 5 】

請求項 7 記載の発明に係るデスクは、請求項 6 記載のものであって、前記脚体は、前記天板が前記第 1 の取付箇所に取り付けられている状態で、前記棚板を前記サブ棚板よりも下方位置に取り付けるための第 3 の取付箇所を備えているものである。

【発明の効果】

【 0 0 1 6 】

本発明によれば、天板の高さ位置を変更して使用姿勢の多様化を図ることができるだけでなく、同一構造をなす他のデスクに隣接させて配置した場合に天板の上面同士あるいは天板と棚板の上面同士を面一に連続させることができる。そのため、それらの上面を広く有効に使用することが可能になるとともに、外観も整然としたものにすることができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 7 】

【図 1】本発明の実施形態 1 に係るデスクを示す斜視図。

【図 2】同実施形態に係るデスクを示す中央側断面図。

【図 3】同実施形態に係るデスクを示す分解斜視図。

【図 4】同実施形態に係るデスクの他の使用態様を示す斜視図。

【図 5】同実施形態に係る図 4 の使用態様のデスクを示す中央側断面図。

【図 6】同実施形態に係る図 4 の使用態様のデスクを示す分解斜視図。

【図 7】同実施形態のデスクを横並びに隣接配置させた状態を示す斜視図。

【図 8】同実施形態のデスクを対面配置させた状態を示す斜視図。

【図 9】同実施形態のデスクを横並びに隣接配置させた状態を示す斜視図。

【図 10】同実施形態のデスクを対面配置させた状態を示す斜視図。

【図 11】同実施形態のデスクの配置態様の一例を示す斜視図。

【図 12】本発明の実施形態 2 に係るデスクを示す斜視図。

【図 13】同実施形態に係るデスクを示す斜視図。

【図 14】図 12 における X - X 線に沿った断面図。

【図 15】本発明の実施形態 3 に係るデスクを示す斜視図。

10

20

30

40

50

【図 16】同実施形態に係るデスクを示す斜視図。
【図 17】図 15 における Y - Y 線に沿った断面図。
【図 18】図 15 における Z - Z 線に沿った断面図。
【図 19】本発明の実施形態 4 に係るデスクを示す斜視図。
【図 20】同実施形態に係るデスクを示す斜視図。
【図 21】図 19 における α - α 線に沿った断面図。
【発明を実施するための形態】

【0018】

以下、本発明の一実施形態（実施形態 1）を図 1 ~ 図 11 を参照して説明する。

【0019】

この実施形態のデスク D（このデスク D を同一構造をなす他のデスク D2 と区別して示す必要がある場合には、このデスクを「デスク D1」と称する場合がある）は、図 1 ~ 図 6 に示すように、相互に高さ位置の異なる第 1 の取付箇所 1a と第 2 の取付箇所 1b とを有する左右一対の脚体 1 と、第 1、第 2 の取付箇所 1a、1b のいずれかに選択的に取り付けられる天板 2 と、その天板 2 が第 2 の取付箇所 1b に取り付けられている状態で第 1 の取付箇所 1a に取り付けられる棚板 3 とを具備してなる。そして、天板 2 の上面 2a が、隣接配置された同一構造をなす他のデスク D2 の天板 2 又は棚板 3 の上面 2a、3a と面一に連続し得るように構成されている。

【0020】

詳述すれば、図 1 ~ 図 6 に示すように、各脚体 1 は、前脚柱 11 と、後脚柱 12 と、これら前脚柱 11 及び後脚柱 12 の上端間を連結する上連結部材 13 と、前脚柱 11 及び後脚柱 12 の下端近傍部間を連結する下連結部材 14 とを具備してなる。前脚柱 11 は後傾姿勢をなすとともに後脚柱 12 は略鉛直姿勢をなしており、上下の連結部材 13、14 は水平姿勢をなしている。第 1 の取付箇所 1a は、脚体 1 の上端部に設定されたもので、各第 1 の取付箇所 1a には、例えば、天板取付用の 3 つのナット n1 と、棚板取付用の 2 つのナット n3 がそれぞれ配されている。具体的には、各ナット n1、n3 は、ねじ孔を脚体 1 の内側面側に開口させて、前後の脚柱 11、12 に埋設されている。第 2 の取付箇所 1b は、第 1 の取付箇所 1a よりも一定距離だけ下方に位置させて設定されたもので、各第 2 の取付箇所 1b には、例えば、天板取付用の 3 つのナット n2 が配されている。具体的には、各ナット n2 は、第 1 の取付箇所 1a に配された 4 つのナット n1 と同様に、ねじ孔を脚体 1 の内側面側に開口させて、前後の脚柱 11、12 に埋設されている。さらに、この脚体 1 は、天板 2 が第 1 の取付箇所 1a に取り付けられている状態で棚板 3 を下端近傍部の位置に取り付けるための第 3 の取付箇所 1c を備えている。この第 3 の取付箇所 1c には、脚体 1 の下連結部材 14 の内面側にねじ孔を開口させたナット n4 が配されている。そして、前述したように、第 1、第 2 の取付箇所 1a、1b のいずれかに天板 2 が選択的に取り付けられるようになっている。なお、前脚柱 11 及び後脚柱 12 は、断面長方形状をなす扁平な角柱パイプ状のもので、左右方向の厚み寸法が前後方向の幅寸法よりも小さく設定されている。そして、前述した上連結部材 13 及び下連結部材 14 は、脚柱 11、12 の外側面 11x、12x から突出しない形状をなしており、これら脚柱 11、12 の外側面 11x、12x に同一構造をなす他のデスク D2 の脚柱 11、12 の外側面 11x、12x を密着させることができるようになっている。なお、上連結部材 13 には切欠 13a が設けられている。

【0021】

天板 2 は、図 1 ~ 図 6 に示すように、矩形状をなす木製の天板本体 21 と、この天板本体 21 の下面 21c の左右両端部に止着されたブラケット 22 とを備えている。ブラケット 22 は、天板本体 21 の側方に配されるブラケット本体 221 と、このブラケット本体 221 の下縁から延出し天板本体 21 の下面 21c に止着される取付部 222 とを備えている。ブラケット本体 221 には、脚体 1 の第 1、第 2 の取付箇所 1a、1b における天板取付用のナット n1、n2 に対応させてねじ挿通孔 22a が設けられている。そして、このねじ挿通孔 22a を通過させた図示しないボルトを天板取付用のナット n1、n2 に

10

20

30

40

50

螺着することにより、天板 2 が第 1、第 2 の取付箇所 1 a、1 b のいずれかに着脱可能に取り付けられるようになっている。

【0022】

第 1 の取付箇所 1 a に取付けられた天板 2 は、使用者が起立姿勢で使用するのに適した図 1 ~ 図 3 に示すようなハイレベル位置 (H) に保持されるものであり、第 2 の取付箇所 1 b に取付けられた天板 2 は、使用者が着座姿勢で使用するのに適した図 4 ~ 図 6 に示すようなローレベル位置 (L) に保持されるものである。この実施形態の場合には、ハイレベル位置 (H) に保持された天板 2 の上面 2 a は、床面から 900 mm 離間した高さ位置に保持され、ローレベル位置 (L) に保持された天板 2 の上面 2 a は、床面から 720 mm 離間した高さ位置に保持されるようになっている。これらの数値は一例であり、適宜設計変更が可能である。そして、この天板 2 が第 1 の取付箇所 1 a に取り付けられている状態では、図 1 ~ 図 3 に示すように、棚板 3 が第 3 の取付箇所 1 c に取り付けられるようになつており、この天板 2 が第 2 の取付箇所 1 b に取り付けられている状態では、図 4 ~ 図 6 に示すように、棚板 3 が第 1 の取付箇所 1 a に取り付けられるようになっている。なお、第 3 の取付箇所 1 c に取り付けられた棚板 3 は、本来の棚板機能だけでなく、足置きとしての機能を発揮させることも可能である。その場合には、棚板 3 の上面 3 a 側に図示しない断面コ字型をなすカバーを装着するのが望ましい。

10

【0023】

棚板 3 は、前後両縁部及び左右両側縁部を下方に延出させた板金製のものである。この棚板 3 の前縁及び後縁には、図 2、図 3、図 5 及び図 6 に示すように、下方に延出した前枠 3 1 及び後枠 3 2 がそれぞれ設けられているとともに、この棚板 3 の左右両側縁には下方に延出した側板 3 3 が設けられている。側板 3 3 にはねじ挿通用の切欠 3 3 a が形成されている。図 5 及び図 6 に示すように、天板 2 が第 2 の取付箇所 1 b に取り付けられている状態では、このねじ挿通用の切欠 3 3 a を通過させた図示しないボルトを第 1 の取付箇所 1 a における棚板取付用の 2 つのナット n 3 に螺着することにより、この棚板 3 を第 1 の取付箇所 1 a に着脱可能に取り付けられるようになっている。一方、天板 2 が第 1 の取付箇所 1 a に取り付けられている状態では、図 2 及び図 3 に示すように、ねじ挿通用の切欠 3 3 a を通過させた図示しないボルトを下連結板 1 4 のナット n 4 にそれぞれ螺着することにより、この棚板 3 を第 3 の取付箇所 1 c に着脱可能に取り付けられるようになっている。

20

30

【0024】

さらに本実施形態では、天板 2 の反使用端側には幕板 4 を垂下させて設けてあり、天板 2 を幕板 4 とともに移動させて前述した第 1 の取付箇所 1 a 及び第 2 の取付箇所 1 b のいずれかに取り付けることができるように構成されている。

【0025】

詳述すれば、幕板 4 は、図 2、図 3、図 5 及び図 6 に示すように、平板状をなす幕板本体 4 1 と、幕板本体 4 1 の上縁から前方に延出する上板 4 2 と、幕板本体 4 1 の左右両側縁から前方にそれぞれ延出する側板 4 3 と、幕板本体 4 1 の下縁から前方に延出する下枠 4 4 とを一体に有した板金製のものであり、上板 4 2 を天板 2 の下面 (より正確には天板本体 2 1 の下面 2 1 c) の後端部にねじ止めしているとともに、側板 4 3 のねじ挿通孔 4 3 x を通過させた図示しないボルトを後脚柱 1 2 の幕板取付用のナット n 5 に螺着することにより幕板 4 を脚体 1 に着脱可能にねじ止めしている。また、側板 4 3 の下部には、切欠 4 3 a を設けている。

40

【0026】

幕板 4 の下端部には、前述した棚板 3 とは異なったサブ棚板 5 が配されている。このサブ棚板 5 は、図 2、図 3、図 5 及び図 6 に示すように、前後両縁部及び左右両側縁部を下方に延出させた板金製のサブ棚板本体 5 1 と、このサブ棚板本体 5 1 の左右両側方にそれぞれ設けられたブラケット 5 2 とを備えている。サブ棚板本体 5 1 の前縁には下方に延出した前枠 5 1 1 が設けられているとともに、サブ棚板本体 5 1 の後縁には下方に延出した後枠 5 1 2 が設けられており、サブ棚板本体 5 1 の左右両側縁には下方に延出した側板 5 1

50

3 が設けられている。ブラケット 5 2 は、後脚柱 1 2 の内面に添接するブラケット本体 5 2 1 と、このブラケット本体 5 2 1 から内方に延出しサブ棚板本体 5 1 の前枠 5 1 1 及び後枠 5 1 2 の巾方向端部を支持する受け板 5 2 2 とを備えている。そして、受け板 5 2 2 のねじ挿通孔 5 2 2 a を通過させた図示しないボルトをサブ棚板本体 5 1 の前枠 5 1 1 及び後枠 5 1 2 内に設けられたナット n 6 に螺着することによりサブ棚板本体 5 1 をブラケット 5 2 に固定するようにしているとともに、ブラケット本体 5 2 1 の後部を側板 4 3 の切欠 4 3 a 内に配し、ブラケット本体 5 2 1 のねじ挿通孔 5 2 1 a を通過させた図示しないボルトを後脚柱 1 2 のサブ棚板取付用のナット n 7 に螺着することによりサブ棚板 5 を脚体 1 に着脱可能に取り付けるようにしている。

【0027】

ここで、サブ棚板 5 は、天板 2 が第 1 及び第 2 の取付箇所 1 a、1 b のいずれに取り付けられた場合であっても、第 3 の取付箇所 1 c よりも上方に位置している。特に、天板 2 が第 1 の取付箇所 1 a に取り付けられ、棚板 3 が第 3 の取付箇所 1 c に取り付けられている場合には、この棚板 3 はサブ棚板 5 よりも下方位置に配されている。

【0028】

そして、このデスク D では、天板 2 と幕板 4 との関係が天板勝ちとなっており、天板 2 の後端 2 b が脚体 1 の後端面 1 2 y と略面一となっている。さらに本実施形態では、幕板 4 の後端 4 a も脚体 1 の後端面 1 2 y と略面一となっている。そして、このデスク D 1 と同一構造をなす他のデスク D 2 とを対面配置させた場合に、このデスク D 1 の脚体 1、天板 2 及び幕板 4 の後端（面）1 2 y、2 b、4 a と同一構造をなす他のデスク D 2 の脚体 1、天板 2 及び幕板 4 の後端（面）1 2 y、2 b、4 a とをそれぞれ密着させることができるようになっている。

【0029】

ここで、図 1 は、天板 2 を脚体 1 の第 1 の取付箇所 1 a に取り付けた状態を示す全体斜視図である。図 2 は、同中央側断面図である。図 3 は、天板 2 を脚体 1 の第 1 の取付箇所 1 a に取り付ける態様を示す分解斜視図である。図 4 は、天板 2 を脚体 1 の第 2 の取付箇所 1 b に取り付けた状態を示す全体斜視図である。図 5 は、同中央側断面図である。図 6 は、天板 2 を脚体 1 の第 2 の取付箇所 1 b に取り付ける態様を示す分解斜視図である。

【0030】

このような構成のものであれば、天板 2 を左右の脚体 1 における第 1 の取付位置 1 a に取り付けることによって、天板 2 の上面 2 a がハイレベル位置（H）に保持されることになり、使用者が起立姿勢で天板 2 に向き合うことが可能となる。この場合、棚板 3 は、脚体 1 における第 3 の取付位置 1 c に取り付けることができる。そのため、この棚板 3 は、幕板 4 の下端部に位置させて脚体 1 に取り付けられるサブ棚板 5 の下方に位置することになり、これら棚板 3 及びサブ棚板 5 の両方にファイル等の保管物を載置して使用することができる。この場合、サブ棚板 5 と天板 2 との間に形成される空間の背面は幕板 4 により隠されるため、サブ棚板 5 上に載置した保管物を後方から他人に見られるのを防止することができる。なお、着座面がオフィスに通常用いられる椅子よりも高いハイトタイプの椅子を別途用意し、天板 2 の上面 2 a をハイレベル位置（H）に保持させたデスク D とともに用いれば、このデスク D を着座姿勢でも使用できる、その際の着座者の起立及び着座が容易である、着座者と起立している人とのコミュニケーションにも適している、足下に A 4 サイズのファイルを 2 段収納できる、といったメリットを得ることもできる。

【0031】

かかる姿勢で複数のデスク D 1、D 2 を横並びに隣接配置したり（図 7 参照）、対面配置したり（図 9 参照）した場合、両デスク D 1、D 2 の天板 2 の上面 2 a が面一に連続することになる。換言すれば、かかる取付態様においては、特定のデスク D 1 の天板 2 の上面 2 a と、当該デスク D 1 と同一構造をなす他のデスク D 2 の天板 2 の上面 2 a とが面一に連続することになる。

【0032】

一方、天板 2 を左右の脚体 1 における第 2 の取付位置 1 b に取り付けることによって、

10

20

30

40

50

天板 2 の上面 2 a がローレベル位置 (L) に保持されることになり、使用者が着座姿勢で天板 2 に向き合うのに適したものとなる。この場合、棚板 3 は、第 3 の取付箇所 1 c から取り外し、第 1 の取付箇所 1 a に取り付けることができる。この場合には、棚板 3 の上面 3 a がローレベル位置 (L) に保持されている天板 2 の上面 2 a より高いハイレベル位置 (H) に保持されることになる。幕板 4 は天板 2 とともに移動させてローレベル位置 (L) にある天板 2 から垂下する姿勢で脚体 1 に取り付けることができる。サブ棚板 5 についても同様に下方に移動させて新たな位置に取り付けることができ、この取付状態におけるサブ棚板 5 と天板 2 との相対位置は同じになるように構成されている。したがって、サブ棚板 5 の上には、常に一定の空間が形成されることになり、この空間の背面は幕板 4 により隠される。そのため、天板 2 がローレベル位置 (L) に保持された状態においてもサブ棚板 5 上に載置した保管物を後方から他人に見られるのを防止することができる。

10

【 0 0 3 3 】

かかる姿勢で複数のデスク D 1、D 2 を横並びに隣接配置したり (図 8 参照)、対面配置したり (図 1 0 参照) した場合、両デスク D 1、D 2 の天板 2 又は棚板 3 の上面 2 a、3 a が面一に連続することになる。換言すれば、かかる取付態様においては、特定のデスク D 1 の天板 2 又は棚板 3 の上面 2 a、3 a と、当該デスク D 1 と同一構造をなす他のデスク D 2 の天板 2 又は棚板 3 の上面 2 a、3 a とが面一に連続することになる。

【 0 0 3 4 】

図 7 及び図 9 では、天板 2 がハイレベル位置 (H) に保持されたデスク D 同士を隣接配置した場合を例示し、図 8 及び図 1 0 では、天板 2 がローレベル位置 (L) に保持されたデスク D 同士を隣接配置した場合を例示しているが、例えば、図 1 1 に示すように、天板 2 がハイレベル位置 (H) に保持されたデスク D 1、D 2 と天板 2 がローレベル位置 (L) に保持されたデスク D 3、D 4 とを混在させて隣接配置することもできる。この場合でも、天板 2 がハイレベル位置 (H) に保持されたデスク D 1、D 2 の天板 2 の上面 2 a と、天板 2 がローレベル位置 (L) に保持されたデスク D 3、D 4 の棚板 3 の上面 3 a とは面一に連続することになる。

20

【 0 0 3 5 】

ここで、複数のデスク D 1、D 2 を横並びに隣接配置した場合、図 7、図 8 及び図 1 1 に示すように、両デスク D 1、D 2 の上連結部材 1 3 同士が当接し、それら上連結部材 1 3 の切欠 1 3 a が対向して連通し、下方への配線挿通孔として機能する。

30

【 0 0 3 6 】

このように本デスク D は、天板 2 の上面 2 a が、隣接配置された同一構造をなす他のデスク D の天板 2 又は棚板 3 の上面 2 a、3 a と面一に連続し得るようになっている。そのため、天板 2 の高さ位置を変更して使用姿勢の多様化を図ることができるだけでなく、同一構造をなす他のデスク D に隣接または対向させて配置した場合に天板 2 の上面 2 a 同士、棚板 3 の上面 3 a 同士あるいは天板 2 と棚板 3 の上面 2 a、3 a 同士を面一に連続させることができる。そのため、それらの上面 2 a、3 a を広く有効に使用することが可能になるとともに、外観も整然としたものにすることができる。

【 0 0 3 7 】

また、第 1 及び第 2 の取付箇所 1 a、1 b に取付けられた天板 2 は、それぞれハイレベル位置 (H) 及びローレベル位置 (L) に保持されるようになっているので、必要に応じて天板 1 の取付箇所を変更することにより、使用者が起立姿勢で使用するいわゆるハイデスクとしても、使用者が着座姿勢で使用する通常のデスクとしても使用することができる。

40

【 0 0 3 8 】

そして、天板 2 が第 1 の取付箇所 1 a に取り付けられている状態で、棚板 3 をサブ棚板 5 よりも下方位置に取り付けるための第 3 の取付箇所 1 c を脚体 1 に備えているので、天板 2 の取付箇所を第 2 の取付箇所 1 b から第 1 の取付箇所 1 a に変更した際に第 1 の取付箇所 1 a から取り外した棚板 3 の保管箇所を別途確保する必要がなく、その上、前述したように棚板 3 に足置きとしての機能を発揮させることもできる。

【 0 0 3 9 】

50

なお、本発明は以上に述べた実施形態に限らない。

【 0 0 4 0 】

以上説明した実施形態 1 のデスク D は、天板勝ちの構造をなしているが、本発明は必ずしもこのようなものに限られないのは勿論であり、例えば、図 1 2 ~ 図 1 4 に示すデスク D D (実施形態 2) や、図 1 5 ~ 図 1 8 に示すデスク D D D (実施形態 3) や、図 1 9 ~ 図 2 1 に示すデスク D 4 (実施形態 4) のように幕板勝ちのものであってもよい。

【 0 0 4 1 】

実施形態 2 のデスク D D は、図 1 2 ~ 図 1 4 に示すように、天板 2 の後端 2 b を幕板 4 の上端部 4 x で覆うように構成し、幕板 4 の後端 4 a を脚体 1 の後端面 1 2 y に面一に合致させた幕板勝ちの構造をなしている。天板 2 は、実施形態 1 の天板本体 2 1 に比べて前後方向寸法が短い天板本体 2 1 と、この天板本体 2 1 の下面 2 1 c の左右両端部に止着されたブラケット 2 2 とを備えたもので、ブラケット 2 2 の構成及びブラケット 2 2 を脚体 1 の第 1、第 2 の取付箇所 1 a、1 b のいずれかに選択的に取り付けるための構成は実施形態 1 に準じたものである。幕板 4 は、平板状をなす幕板本体 4 1 と、この幕板本体 4 1 の上縁から前方に延出する上板 4 2 と、この上板 4 2 の延出端から垂下し天板本体 2 1 の後端に添接する垂下板 4 5 と、この垂下板 4 5 の下端から前方に延出し天板本体 2 1 の下面 2 1 c の後端部に止着される取付板 4 6 と、幕板本体 4 1 の左右両側縁から前方にそれぞれ延出する側板 4 3 と、幕板本体 4 1 の下縁から前方に延出する下枠 4 4 とを一体に有した板金製のものであり、上板 4 2 の上面 4 2 a は天板 2 の上面 2 a と面一に連続させてあるとともに、この上板 4 2 の左右方向中間部には、天板 2 の上方と下方とを連通させる開口 4 2 x が設けられている。なお、以上説明した以外の構成は実施形態 1 に準じたものであり、実施形態 1 と同一又は相当する部分には同一の符号を付して説明を省略する。ここで、図 1 2 は、天板 2 を脚体 1 の第 1 の取付箇所 1 a に取り付けた状態のデスク D D を示す全体斜視図である。図 1 3 は、天板 2 を脚体 1 の第 2 の取付箇所 1 b に取り付けた状態のデスク D D を示す全体斜視図である。図 1 4 は、図 1 2 における X - X 線に沿った断面図である。

【 0 0 4 2 】

実施形態 3 のデスク D D D は、実施形態 2 のデスク D D と同じく幕板勝ちの構造をなしているが、実施形態 2 と異なり、幕板 4 の上端部 4 x により配線ダクト H を形成している。詳述すれば、図 1 5 ~ 図 1 8 に示すように、このデスク D D D の幕板 4 は、平板状をなす幕板本体 4 1 と、この幕板本体 4 1 の上縁から前方に延出するダクト水平板 4 7 と、このダクト水平板 4 7 の延出端から起立させたダクト起立板 4 8 と、このダクト起立板 4 8 の上縁から前方に延出し天板本体 2 1 の下面 2 1 c の後端近傍部に止着される取付板 4 9 と、幕板本体 4 1 の左右両側縁から前方にそれぞれ延出する側板 4 3 と、幕板本体 4 1 の下縁から前方に延出する下枠 4 4 とを一体に有した板金製のものであり、ダクト水平板 4 7 とダクト起立板 4 8 とによって上方及び後方に開放された配線ダクト H が形成されている。なお、ダクト水平板 4 7 の中間部には、配線ダクト H 上の配線を案内するガード部材 6 が設けられている。ガード部材 6 は、幕板本体 4 1 の上縁から立ち上がる後板 6 1 と、この後板 6 1 の上縁から前方に延出する上板 6 2 と、この上板 6 2 の延出端から垂下する取付板 6 3 とを一体に備えたものであり、取付板 6 3 が天板本体 2 1 の後端 2 1 b に止着されている。ここで、後板 6 1 の後面 6 1 a は、幕板 4 の後端 4 a と面一に連続させてある。また、上板 6 2 の上面 6 2 a は、天板 2 の上面 2 a と面一に連続させてある。ダクト水平板 4 7 の左右方向端部には、配線挿通用の切欠 4 7 a が設けられている。なお、以上説明した以外の構成は実施形態 1 に準じたものであり、実施形態 1 と同一又は相当する部分には同一の符号を付して説明を省略する。ここで、図 1 5 は、天板 2 を脚体 1 の第 1 の取付箇所 1 a に取り付けた状態のデスク D D D を示す全体斜視図である。図 1 6 は、天板 2 を脚体 1 の第 2 の取付箇所 1 b に取り付けた状態のデスク D D D を示す全体斜視図である。図 1 7 は、図 1 5 における Y - Y 線に沿った断面図である。図 1 8 は、図 1 5 における Z - Z 線に沿った断面図である。

【 0 0 4 3 】

10

20

30

40

50

実施形態４のデスクＤ５は、実施形態２及び３のデスクＤＤ、ＤＤＤと同じく幕板勝ちの構造をなしているが、実施形態２及び３と異なり、幕板４の上方かつ天板２の後方に以下に述べるような配線ダクトＨを設けている。

【００４４】

この配線ダクトＨは、図１９～図２１に示すように、後面Ｈ１ａが幕板４の後面４ａと面一な起立板Ｈ１と、起立板Ｈ１の下端から前方に延び後部が幕板４の上板４２に載置される底板Ｈ２と、底板Ｈ２の前方に位置し図示しないボルトにより天板２の下面２１ｃにねじ止めされる取付部Ｈ３とを備えており、底板Ｈ２の上方に形成される配線挿通空間Ｈａに天板２の上面２ａに載置した図示しない機器類から配線を導くことができるようになっている。なお、以上説明した以外の構成は実施形態１に準じたものであり、実施形態１
10
と同一又は相当する部分には同一の符号を付して説明を省略する。ここで、図１９は、天板２を脚体１の第１の取付箇所１ａに取り付けた状態のデスクＤ５を示す全体斜視図である。図２０は、天板２を脚体１の第２の取付箇所１ｂに取り付けた状態のデスクＤ５を示す全体斜視図である。図２１は、図１９におけるα-α線に沿った断面図である。

【００４５】

さらに、幕板を有しない、あるいはサブ棚板を有しないデスクに本発明を適用してもよく、幕板及びサブ棚板を有する場合であっても幕板とサブ棚板との相対位置は任意に設定してよい。

【００４６】

そして、脚体の取付箇所数は２箇所以上であれば任意に設定してよく、各取付箇所の
20
高さ位置も任意に設定してよい。脚体の形状も、上述した各実施形態のような後傾姿勢をなす前脚柱と略鉛直姿勢をなす後脚柱とを備えたものに限らず、任意に設定してよい。

【００４７】

その他、本発明の趣旨を損ねない範囲で種々に変形してよい。

【符号の説明】

【００４８】

Ｄ、ＤＤ、ＤＤＤ、Ｄ５…デスク

１…脚体

１ａ…第１の取付箇所

１ｂ…第２の取付箇所

１ｃ…第３の取付箇所

１２ｙ…脚体の後端面

２…天板

２ａ…天板の上面

２ｂ…天板の後端

３…棚板

３ａ…棚板の上面

４…幕板

４ａ…幕板の後端

５…サブ棚板

(Ｈ)…ハイレベル位置

(Ｌ)…ローレベル位置

10

20

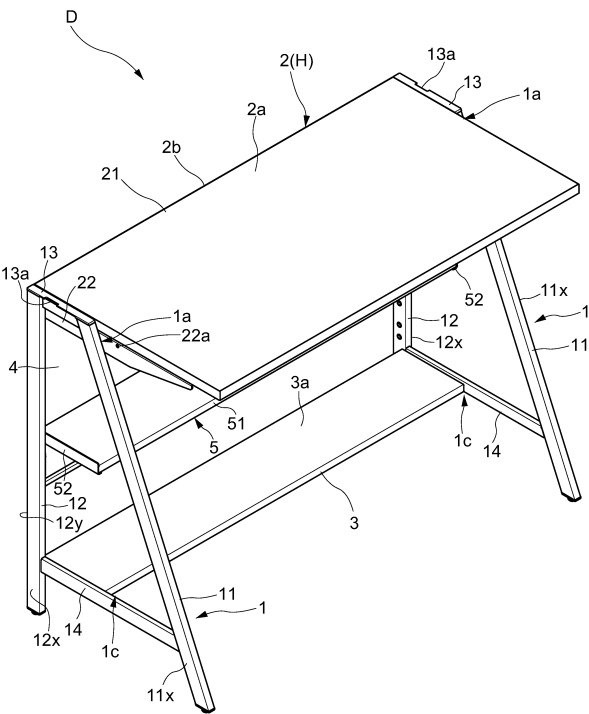
30

40

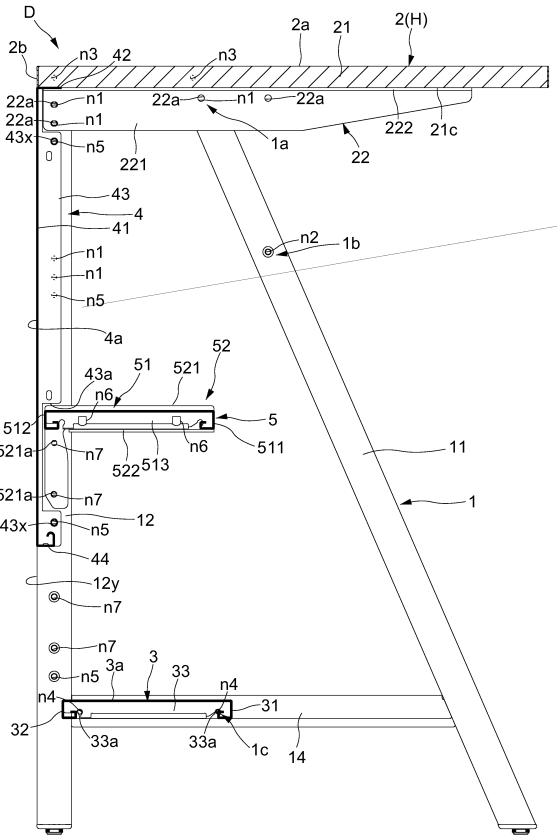
50

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

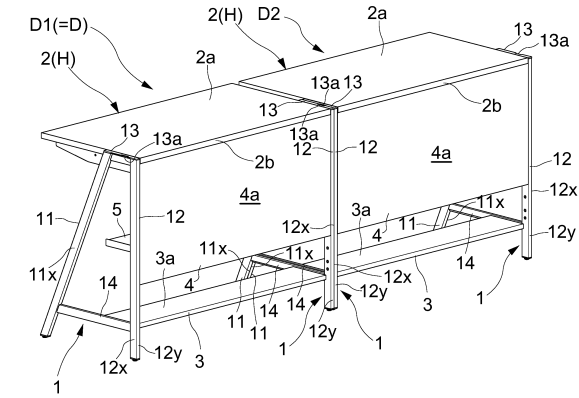
20

30

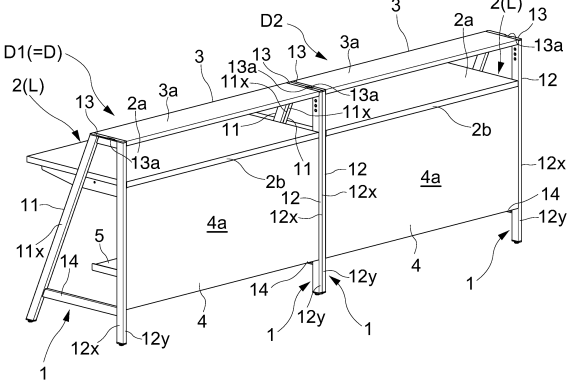
40

50

【 図 7 】

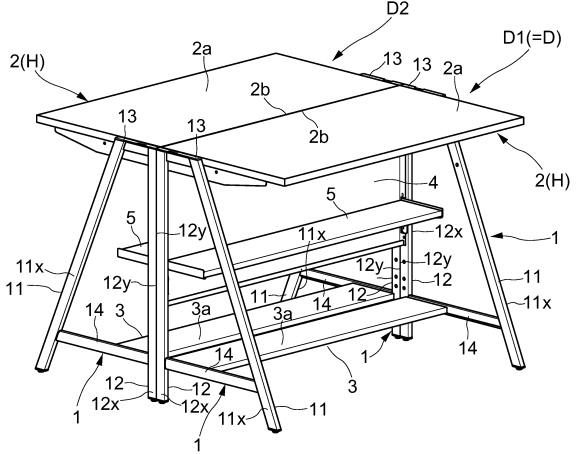


【 図 8 】

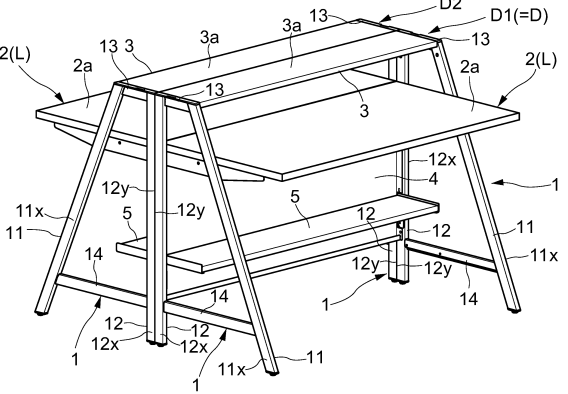


10

【 図 9 】



【 図 10 】



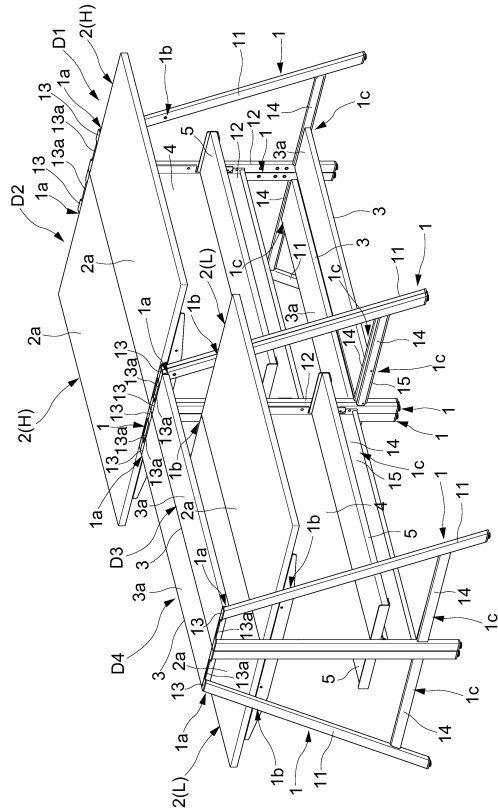
20

30

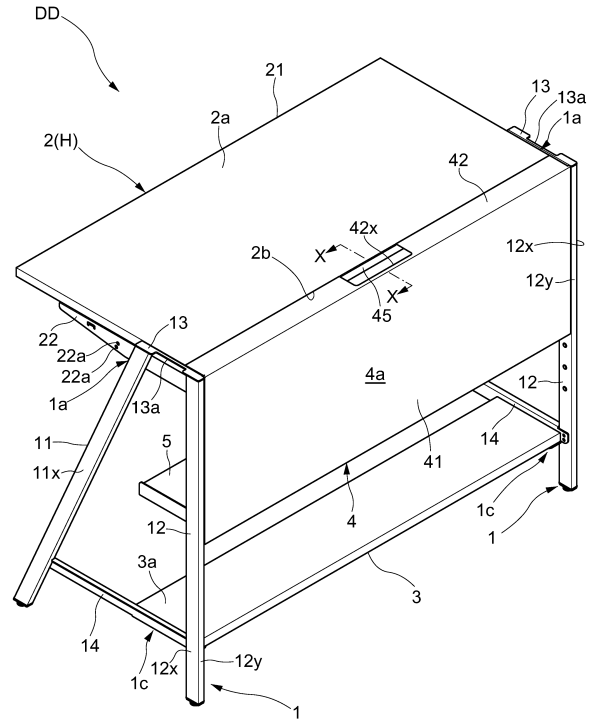
40

50

【 図 1 1 】



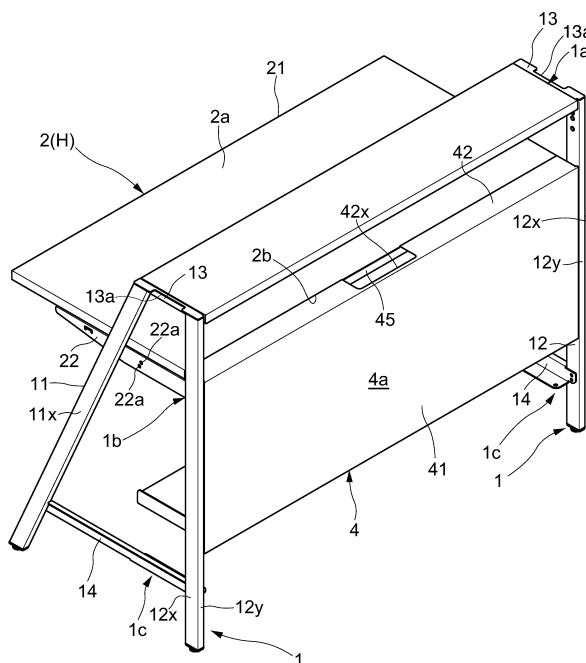
【圖 1 2】



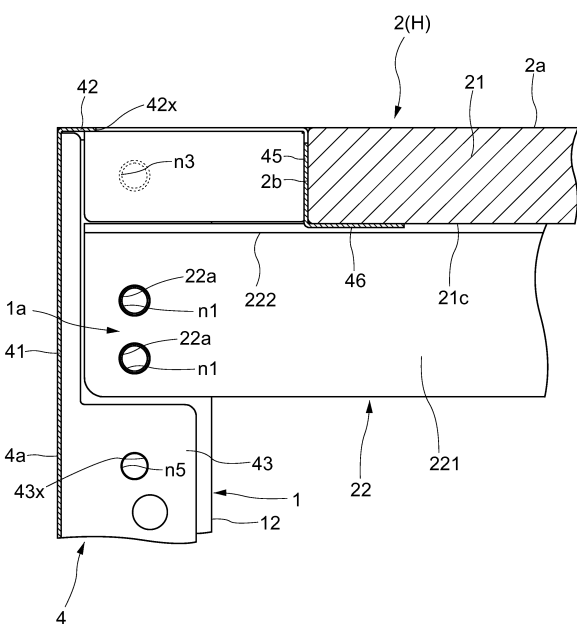
10

20

【 図 1 3 】



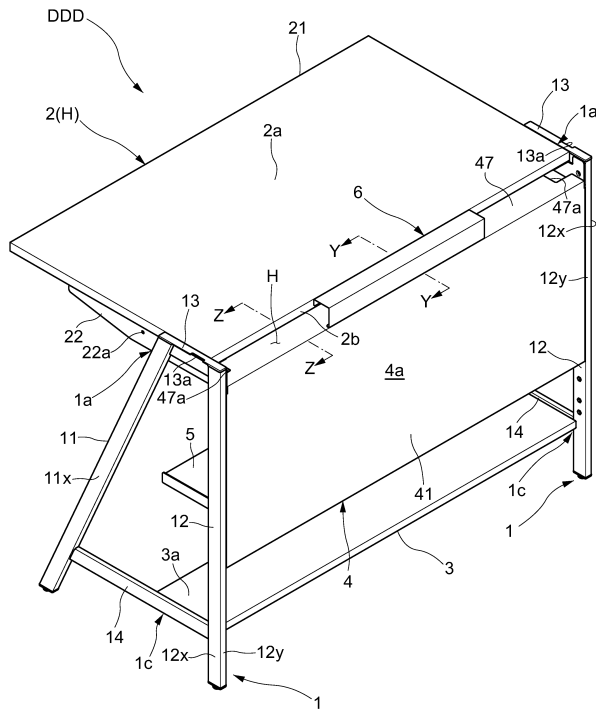
【 図 1 4 】



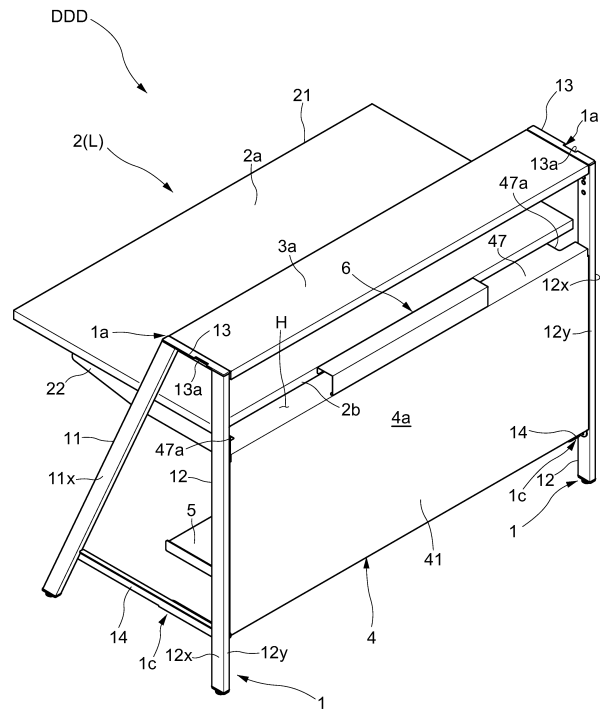
30

40

【 図 1 5 】



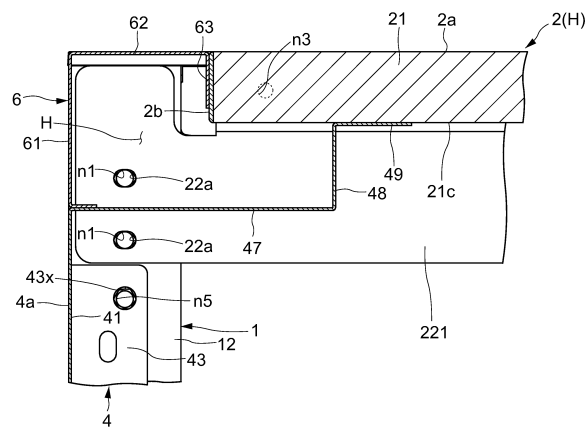
【圖 16】



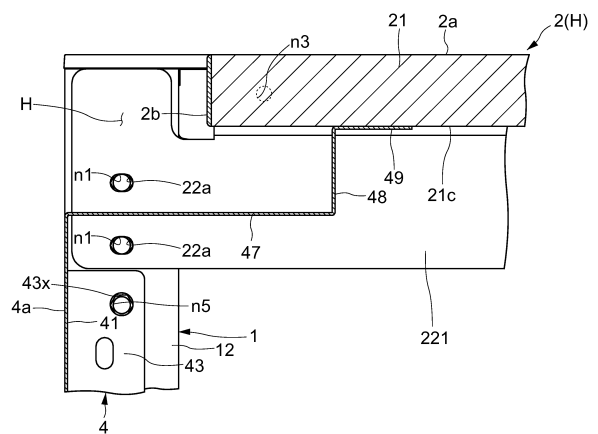
10

20

【 図 1 7 】



【 図 1 8 】

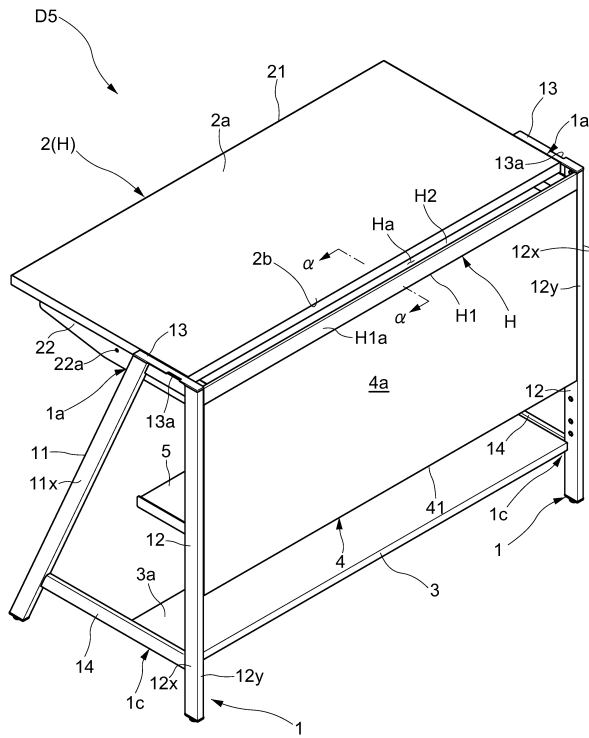


30

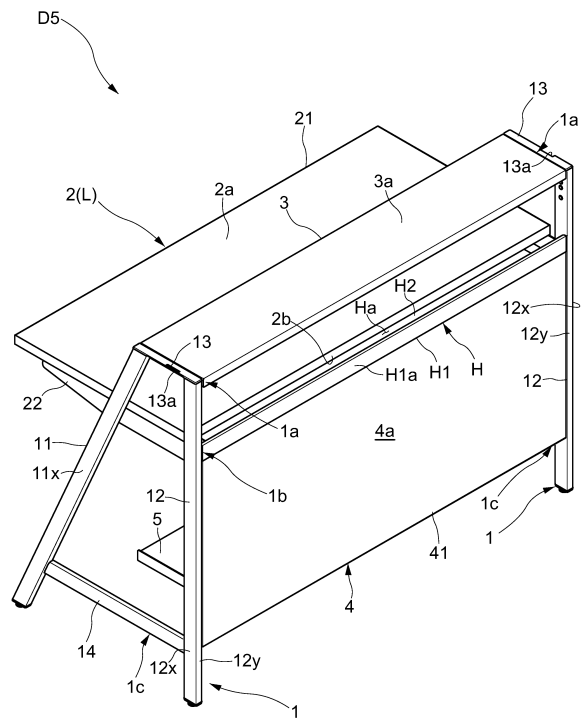
40

50

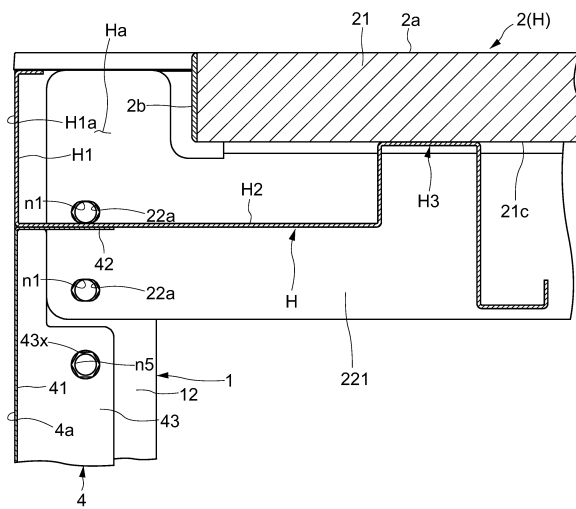
【 図 1 9 】



【 図 2 0 】



【 図 2 1 】



フロントページの続き

審査官 七字 ひろみ
(56)参考文献 特開 2 0 1 9 - 2 0 1 7 4 0 (J P , A)
特開 2 0 1 9 - 0 6 3 3 1 5 (J P , A)
(58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
A 4 7 B 9 / 0 0
A 4 7 B 1 3 / 0 0
A 4 7 B 1 7 / 0 0
A 4 7 B 9 / 1 4
A 4 7 B 2 1 / 0 0
A 4 7 B 4 7 / 0 0
A 4 7 B 7 / 0 0